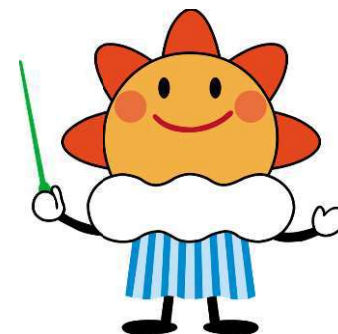
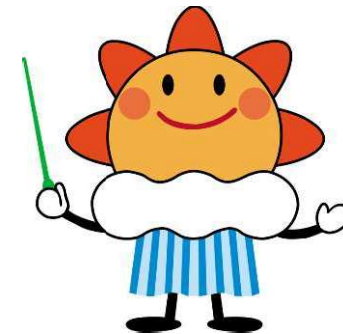


近年夏の高温 及び令和8年夏の季節予報について

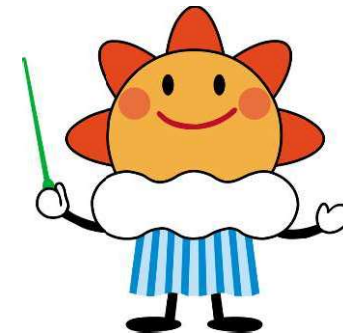
仙台管区気象台 気象防災部 地域防災推進課
地球温暖化情報官 南 敦



- 近年夏の高温について
- 令和 8 年夏の季節予報



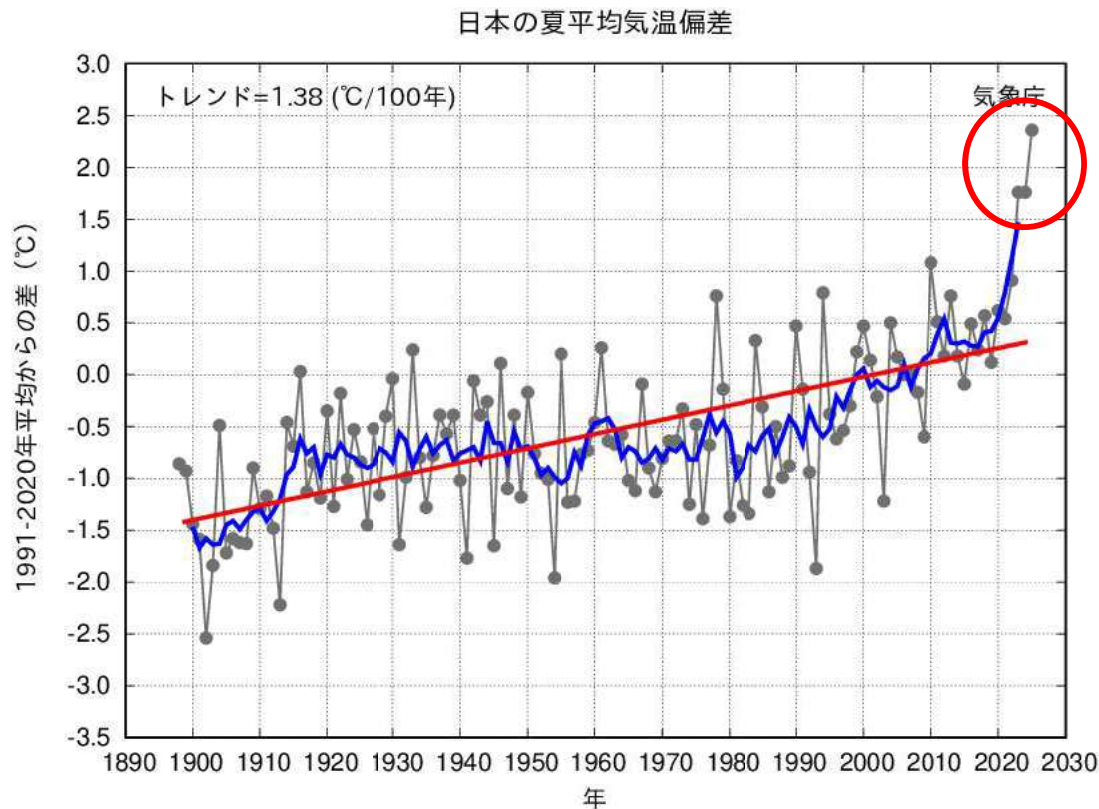
- 近年夏の高温について
- 令和 8 年夏の季節予報



近年夏の高温の状況

- 3年連続で全国的に顕著な高温となり、2025年は1898年の統計開始以降で最も暑い夏となった。

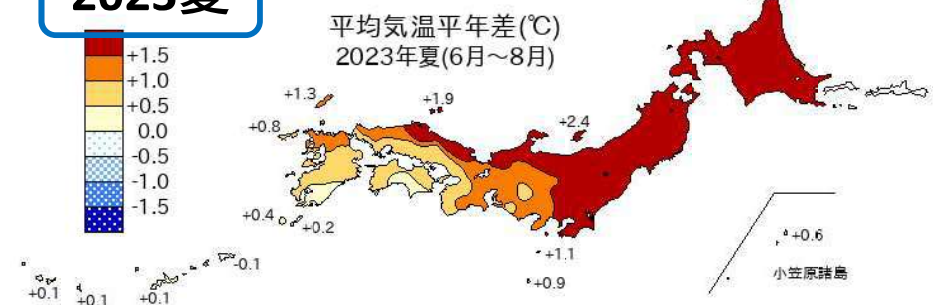
2023～2025年夏平均気温偏差



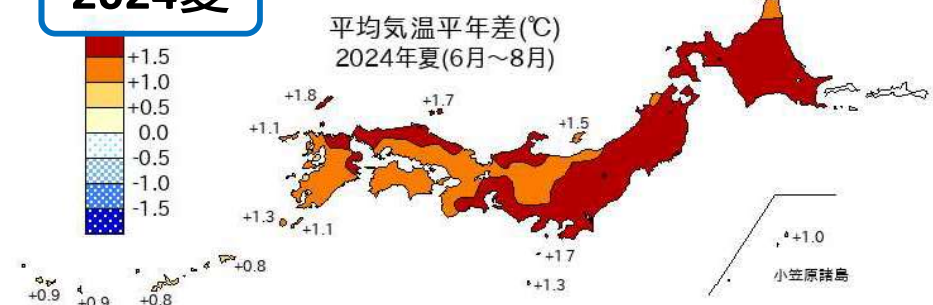
日本の夏の平均気温偏差

https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/win_jpn.html

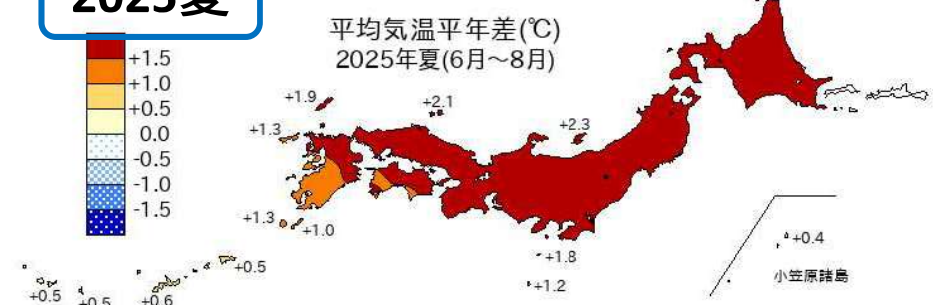
2023夏



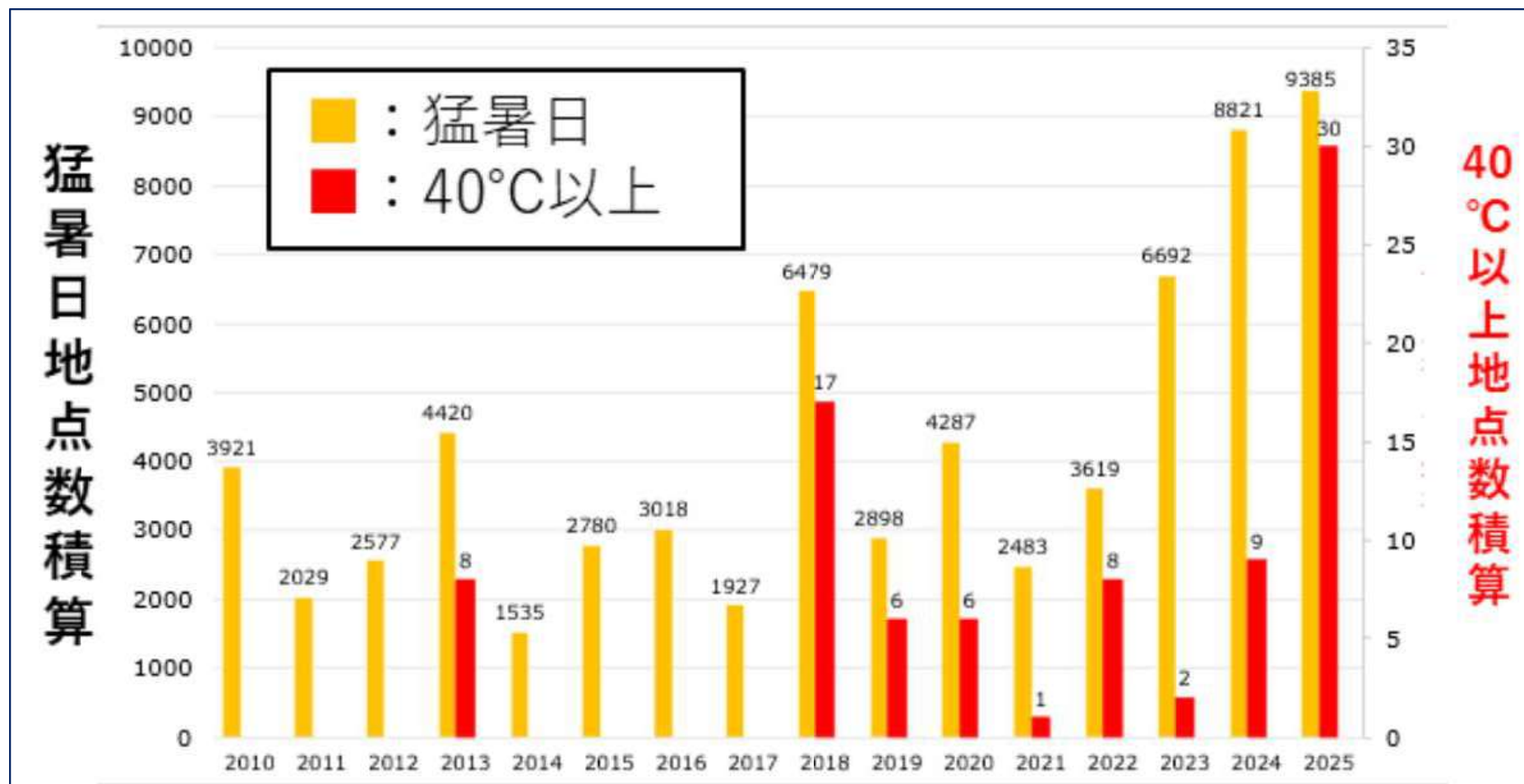
2024夏



2025夏



- 2025年は40℃以上を観測した地点数が最多。
- 近年は40℃以上になることが珍しくなくなっている。



2010年以降の夏の猛暑日（日最高気温35℃以上）と
日最高気温40℃以上の延べ地点数

2025年夏の高温の記録

- 2025年は全国各地で記録的な高温になった。

全国の最高気温ランキングTOP10

順位	場所	気温	日時
1	伊勢崎（群馬県）	41.8℃	2025/8/5
2	静岡（静岡県）	41.4℃	2025/8/6
2	鳩山（埼玉県）	41.4℃	2025/8/5
4	桐生（群馬県）	41.2℃	2025/8/5
4	柏原（兵庫県）	41.2℃	2025/7/30
6	浜松（静岡県）	41.1℃	2020/8/17
6	熊谷（埼玉県）	41.1℃	2018/7/23
8	前橋（群馬県）	41.0℃	2025/8/5
8	佐野（栃木県）	41.0℃	2024/7/29
8	美濃（岐阜県）	41.0℃	2018/8/8
8	金山（岐阜県）	41.0℃	2018/8/6
8	江川崎（高知県）	41.0℃	2013/8/12



東北地方でも
各地で記録的な高温に

青森：36.0℃（7/17,歴代7位）
秋田：37.0℃（8/1,歴代10位）
盛岡：37.2℃（8/3,歴代1位）
山形：38.5℃（7/29,歴代5位）
仙台：37.4℃（9/2,歴代1位）
福島：39.2℃（7/26,歴代1位）

最高気温40℃以上の日の名称：「酷暑日」

- 気象庁では、最高気温40℃以上の日の名称を「酷暑日」に決定。
- 今後、気象庁から発信する情報に利用。



気象庁
Japan Meteorological Agency

報道発表

いのちとくらしをまもる
防災減災



令和8年4月17日
大気海洋部

最高気温が40℃以上の日の名称を「酷暑日」に決定

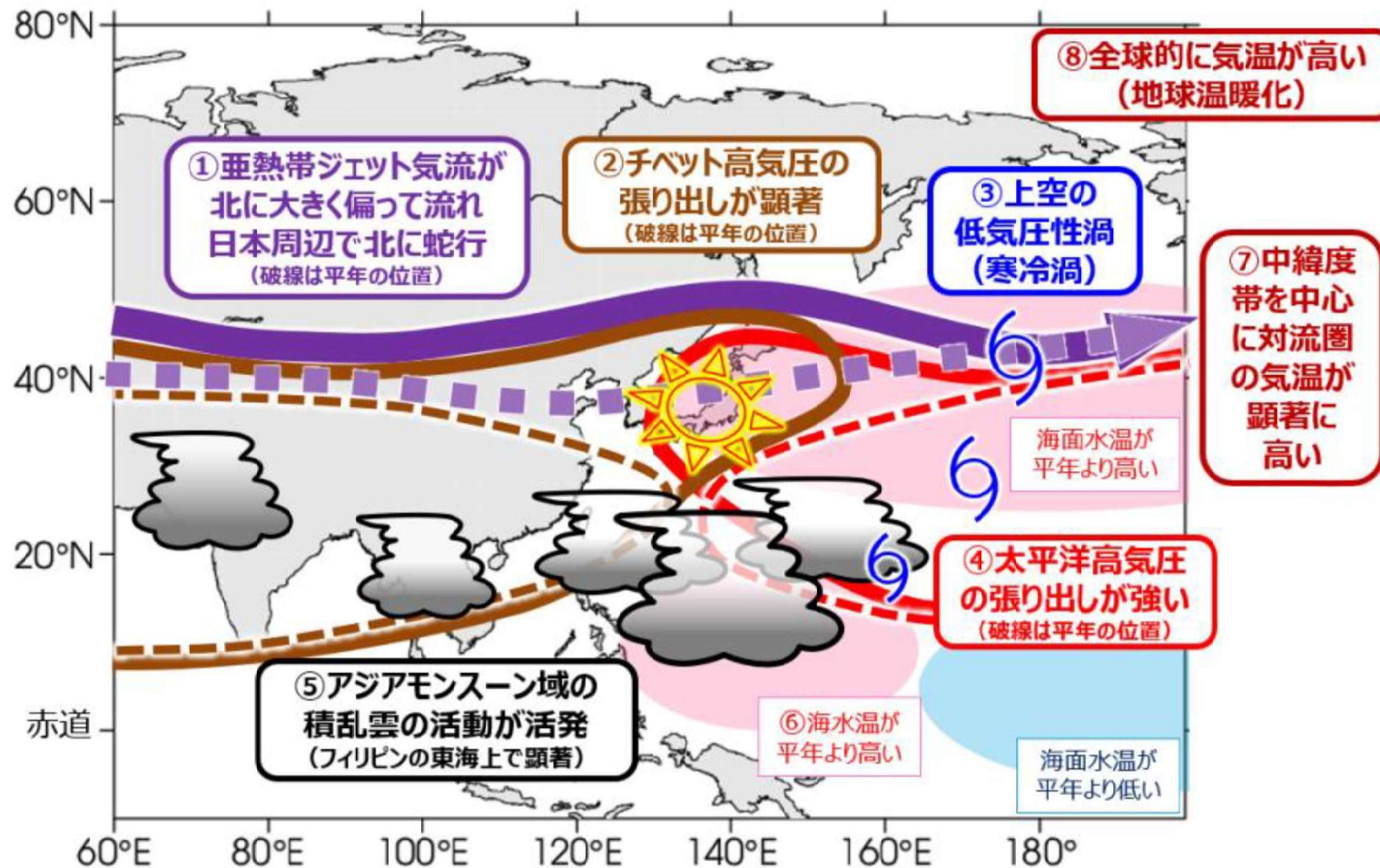
最高気温 40℃以上の日の名称について、気象庁ホームページで実施したアンケート結果や有識者のご意見を踏まえて「酷暑日」と決定しました。

https://www.jma.go.jp/jma/press/2604/17a/20260417_40degree_name.pdf

夏日：最高気温25℃以上、熱帯夜：夕方から翌日の朝までの最低気温が25℃以上
真夏日：最高気温30℃以上、猛暑日：最高気温35℃以上、**酷暑日：最高気温40℃以上**

2025年夏の高温の要因

- 暑さをもたらす大気・海洋の状態＋地球温暖化
- 地球温暖化が無ければ2025年夏の高温は起こりえなかった



- 日本における気候変動に関して観測結果と将来予測を取りまとめた資料
(文部科学省と気象庁が共同で作成)

- ・ 気候変動を学ぶときの学習資料
- ・ 気候変動対策検討の基礎資料
として利用できます



<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

20ページほど

概要版
／まずはこちらから／



PDF版
English(PDF)
PPT版

80ページほど

本編
／基本を網羅／



HTML版
PDF版
正誤表(PDF)
解説の手引き(PDF)

400ページほど

詳細編
／より詳しく／



PDF版
PDF版章別

日本の気候変動2025を用いた気候変動解説の手引き(次スライド)

都道府県別リーフレット



PDF形式

解説動画



動画形式

素材集



素材集

- 日本の気候変動2025の本編に、分かりやすく伝える例えや表現、市民生活への影響事例などを追記した解説支援資料。

報告書本編

解説

報告書本編

日本の年平均気温について 「上昇率は100年当たり1.40℃の割合」

解説 New!

上昇率や増加率について説明する際は以下のような表現に注意してください。

× **100年で●℃上昇**
(特定の100年間(例えば1921年から2020年)の上昇量が●℃であることを意味するわけではなく、1898～2024年の平均的な変化の割合を示しているため。)

× **2024年までの100年で●℃上昇**
(2024年までの100年で計算したのではなく、1898～2024年で計算した結果を100年当たりの上昇量で示しているため)

× **100年前と比べて●℃上昇**
(特定の年に対する上昇量ではないため)

○ **100年当たり●℃の上昇**
(「割合で」を省略しても構いません)

- [世界] IPCC 第6次評価報告書は、極端な高温(熱波を含む)が1950年代以降ほとんどの陸地で頻度及び強度が増加している一方で、極端な低温(寒波を含む)の頻度と強度が低下していることはほぼ確実であり、人為起源の気候変動がこれらの変化の主要な駆動要因であることについては確信度が高いと評価している。(詳細編第4.1.1項)

(2) 日本の年平均気温の上昇率は世界平均よりも高い

- [日本] 都市化の影響が比較的小さいとみられる気象庁の15観測地点*で観測された年平均気温は、様々な時間スケールの変動を伴いながらも、長期的に上昇しており、その1898年から2024年までの上昇率は100年当たり1.40℃の割合である。特に1990年代以降、これまでの記録となるような高温年が頻出している。(図4-1.2、詳細編第4.2.1項)
- [日本] 北半球の中緯度は陸地が多いため、日本の平均気温の上昇率は世界平均よりも高い。(詳細編第4.2.1項)

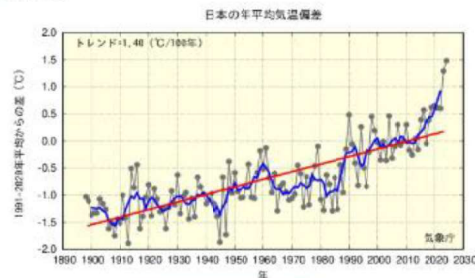


図4-1.2 日本の年平均気温偏差の経年変化(1898～2024年)

折れ線(黒)：各年の平均気温の基準値からの偏差、折れ線(青)：偏差の5年移動平均値、直線(赤)：長期的な変化傾向を示す。基準値は1991～2020年の30年平均値である。
5年移動平均値はその年と前後2年を含めた5年分の平均をとった値である。5年移動平均をとることにより、年ごとの短い期間の変動を取り除き、これらよりもゆっくりとした変動を抽出することができる。

29 ここでの熱波(Heatwave)とは異常に暑い天候が続く現象のこと。2日間から数日間続く、相対的な気温の偏値を基準に定義されることが多い(IPCC第6次評価報告書)。日本では、熱波を示す数値上の定義はなされていない。

30 日本の年平均気温偏差の算出には、全国の地上気象観測地点の中から、観測データの均質性が長期間確保でき、かつ都市化等による環境の変化が比較的小さい地点を使用している。このような地点から地域的に偏りなく分布するように選出した15地点が、網走、根室、釧路、山形、石巻、仙台、盛岡、新潟、長野、富山、岐阜、愛知、名古屋、大阪、神戸、福岡、那覇である。これらの観測地点を平均した日本の年平均気温の長期的変化傾向に対しては都市化の影響がほとんどないことが考えられる(図4-1.4参照)。気象庁では、それらの地点ごとに年平均気温の偏差を算出し、15地点分を平均することにより、日本の年平均気温の偏差としている。

上昇率や増加率について説明する際は以下のような表現に注意してください。

- × 100年で●℃上昇(特定の100年間(例えば1921年から2020年)の上昇量が●℃であることを意味するわけではなく、1898～2024年の平均的な変化の割合を示しているため。)
- × 2024年までの100年で●℃上昇(2024年までの100年で計算したのではなく、1898～2024年で計算した結果を100年当たりの上昇量で示しているため)
- × 100年前と比べて●℃上昇(特定の年に対する上昇量ではないため)
- 100年当たり●℃の上昇(「割合で」を省略しても構いません)

【参考】日本の気温上昇が世界平均よりも大きいのはなぜか？(p.30)において、背景要因として考えられることを記載しています。

異なる地点間などで上昇率(トレンド)を比較する場合には、上昇率を算出する対象期間を統一する必要があります。例えば、統計期間が近年の短い地点で算出した上昇率を、より長い統計期間の地点の上昇率と直接比較することは適切ではありません。

このグラフの基準値は、1991～2020年の平均値です。一方で、本報告書では(1)のように工業化以前(1850～1900年の平均値)を基準値としたグラフも示しています。各グラフの偏差を比較する場合は、基準値の違いに注意してください。

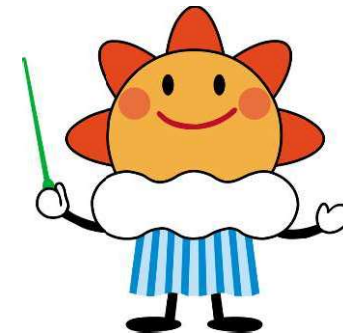
なお、パリ協定の目標は工業化以前と比べ世界全体の平均気温の上昇を2℃より十分低く保つとともに、1.5℃までに抑える努力を追求するというものです。パリ協定では「工業化以前」の具体的な時期を示していませんが、IPCCでは世界平均気温について、1850～1900年の平均値を工業化以前の状態の近似値としています。図4-1.2の1991～2020年を基準値とする各年の値は、パリ協定の目標と比較可能な数値ではないことに注意してください。

また、偏差の単位は、平均気温の単位と同じです。つまり、偏差が1位となった年は、平均気温が1位となった年と言い換えることができます。

グラフの折れ線(黒)を見ると、年ごとに線が細かく上下していることが分かります。このような年ごとの短い期間の変動を取り除き、ある程度長い期間の変動を抽出する方法が移動平均です。グラフの折れ線(青)で示されている移動平均を見ると、年ごとの細かい変動が取り除かれてはならぬか様になっていますが、それでも上下する変動があることが分かります。これは数年から数十年の周期をもつ変動などが重なり合っているためです。

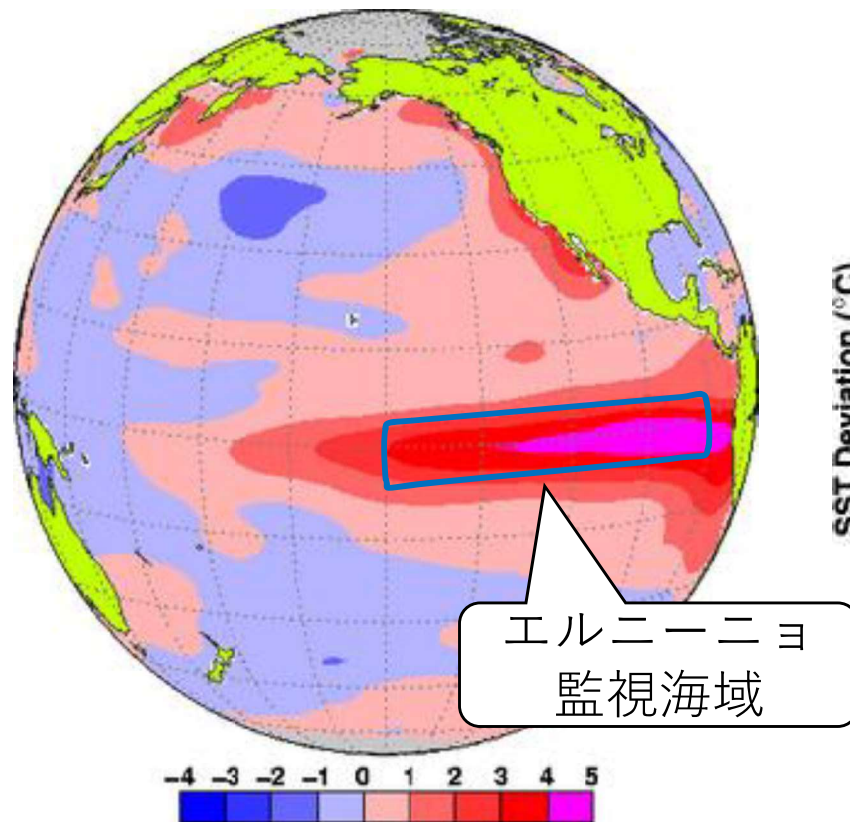
また、地球温暖化による気温上昇は、更に長期間

- 近年夏の高温について
- 令和 8 年夏の季節予報

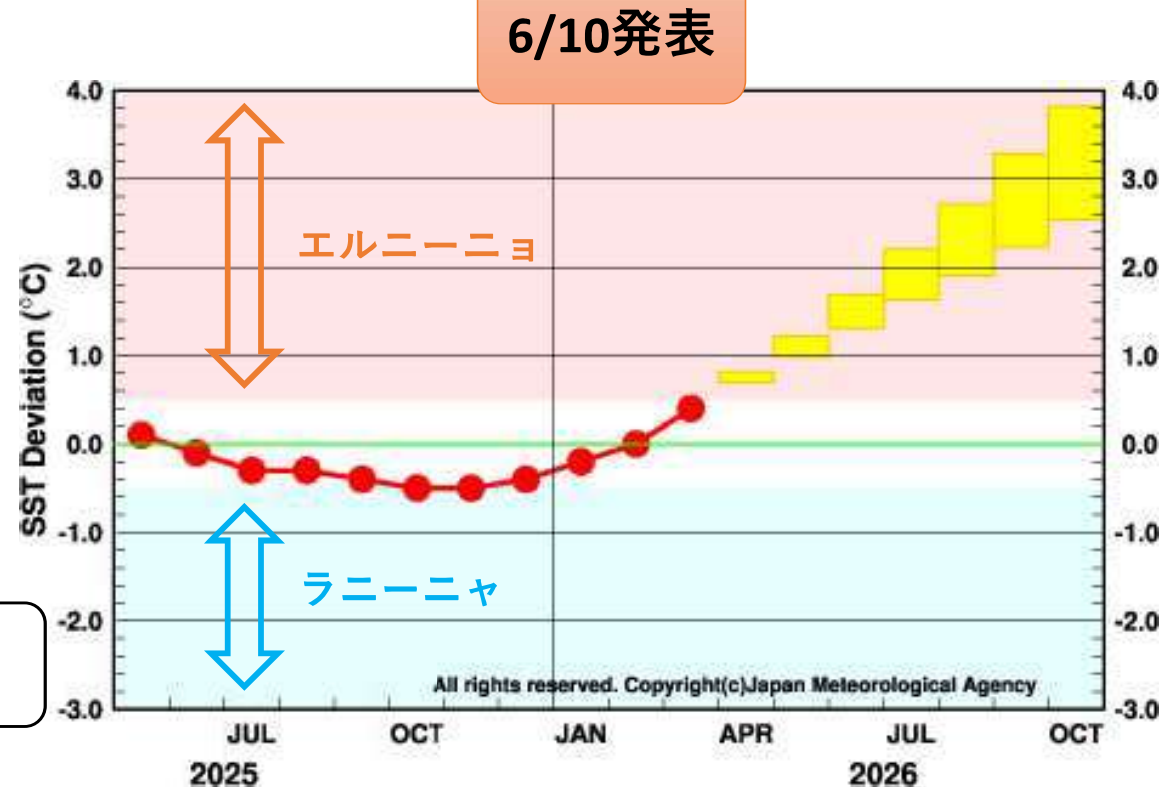


今後、秋にかけてエルニーニョ現象が続く見込み

- 2026年春からエルニーニョ現象が発生しているとみられる。
- 今後、秋にかけてエルニーニョ現象が続く見込み（100%）。



エルニーニョ現象発生時の
海面水温偏差（1997年11月）



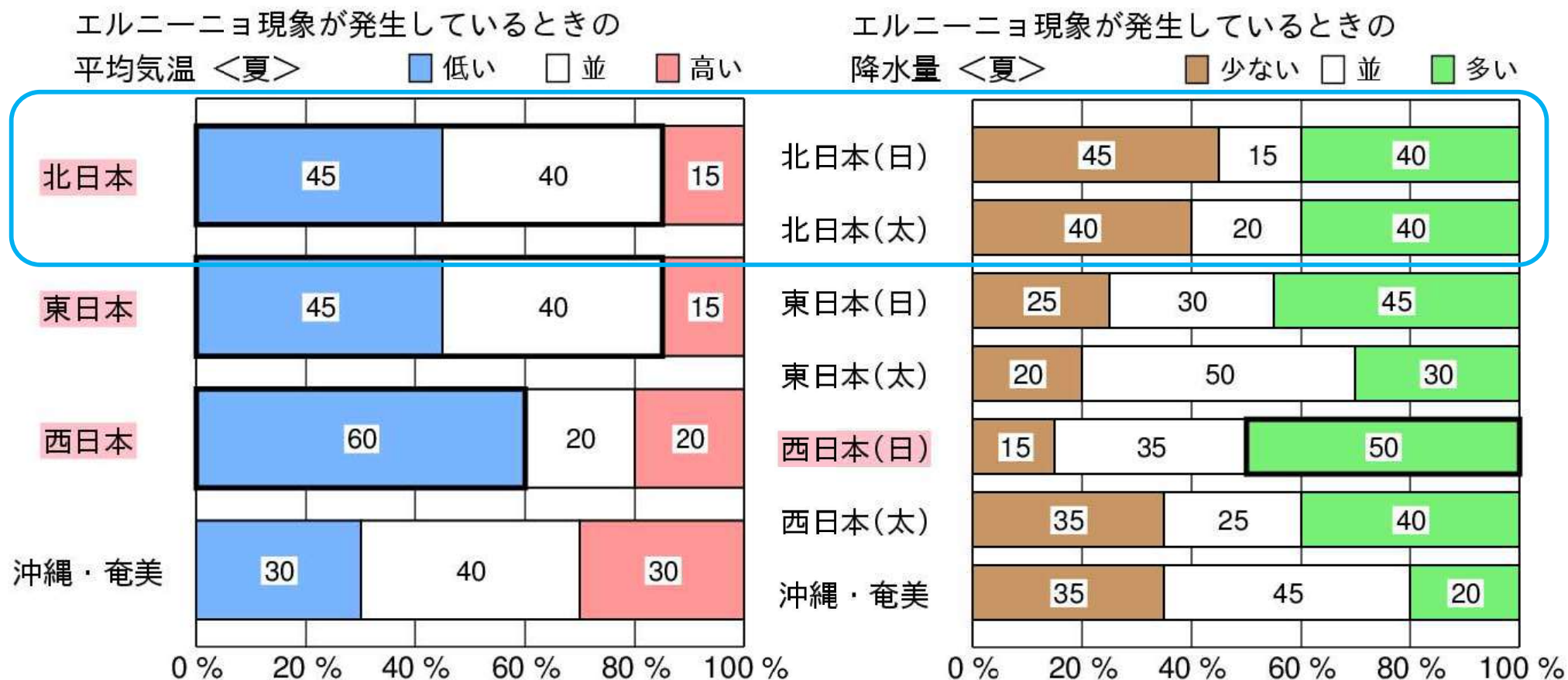
エルニーニョ監視海域監視指数の
実況と予測（5か月移動平均）

https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

エルニーニョ現象発生時の日本の夏（6～8月）の天候

- 平均気温：統計的には、北日本では**平年並みか低い**傾向。

ただ、今年の夏は・・・



統計期間 1948年～2021年。棒グラフの数字は出現率を示す。
地域名の赤い帯と棒グラフの太黒枠は統計的に有意な傾向を示す。

3 か月予報（6月～8月：東北地方 月毎）

- 平均気温は...「高い」見込み

平均気温

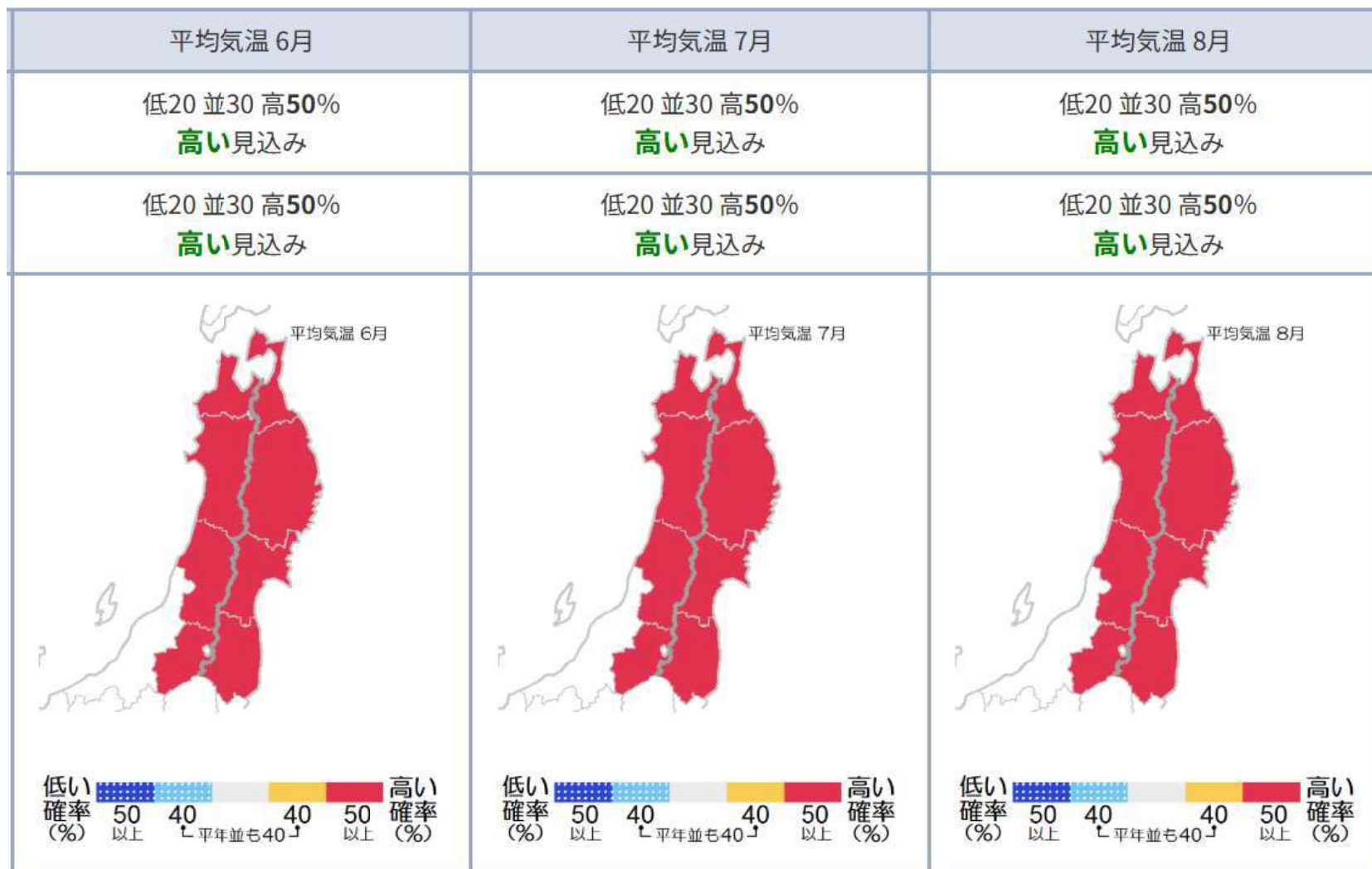
日本海側

太平洋側

6 月

7 月

8 月



5/19発表

【気象庁HP】 3 か月予報解説資料

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010200&term=P3M>

3 か月予報（6月～8月：東北地方 月毎）

■ 降水量は...「ほぼ平年並」の見込み

降水量

日本海側

太平洋側

6 月

7 月

8 月

降水量 6月	降水量 7月	降水量 8月
少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
降水量 6月 少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 平年並も40	降水量 7月 少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 平年並も40	降水量 8月 少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 平年並も40

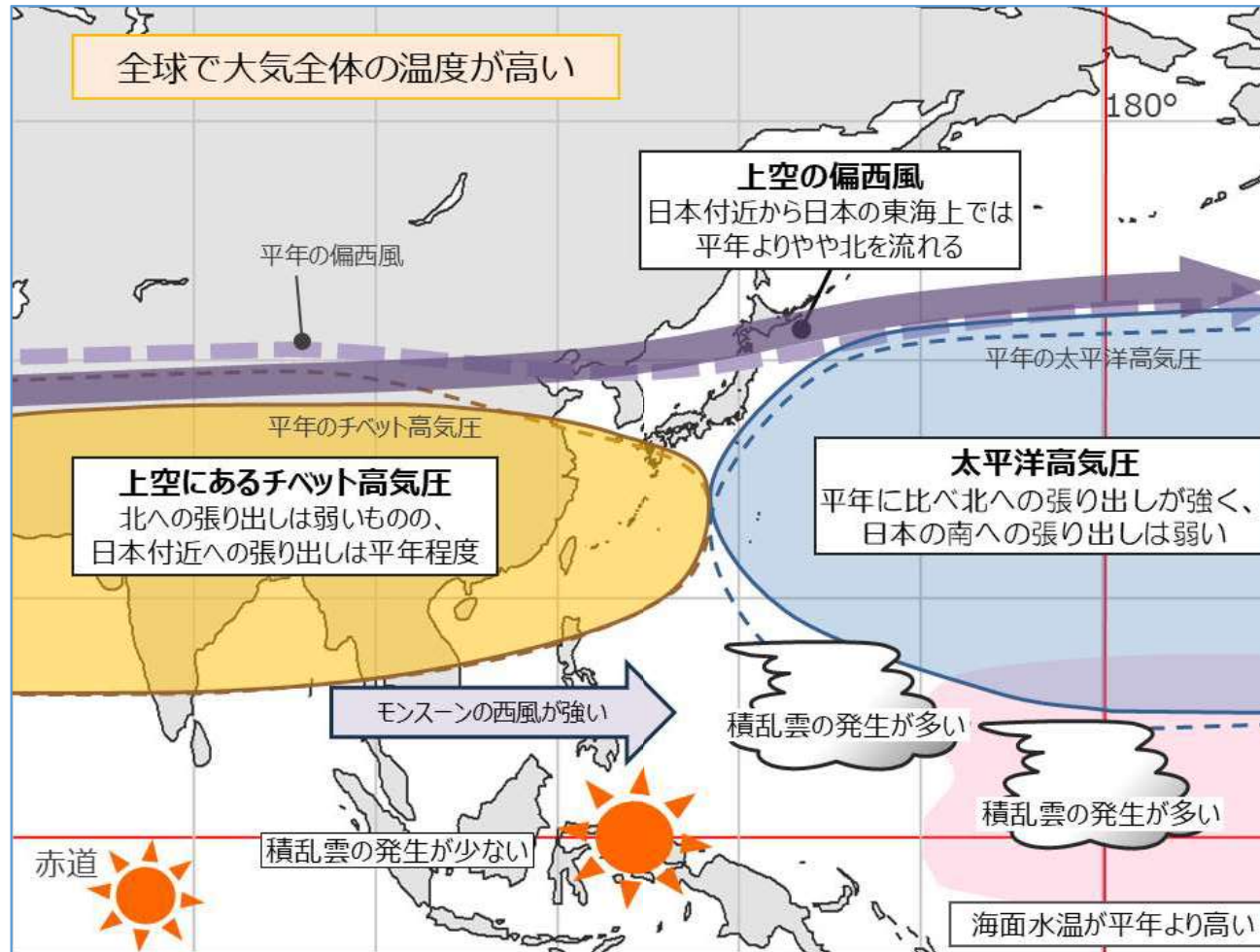
5/19発表

【気象庁HP】 3 か月予報解説資料

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010200&term=P3M>

3か月予報（6月～8月：東北地方）

予想される海洋と大気の特徴



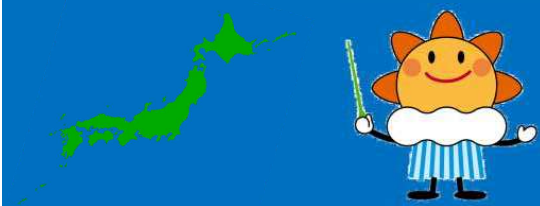
・ **地球温暖化の影響等**により、**全球で大気全体の温度が高い**。

・ モンスーンの西風が強く、積乱雲の発生はフィリピンの東から太平洋中部で多い一方、インドネシア付近からインド洋にかけては積乱雲の発生が少ない見込み。

・ このため、上空の偏西風はユーラシア大陸では平年より南を流れるものの、**日本付近から日本の東海上では平年よりやや北を流れる**見込み。また、**太平洋高気圧の北への張り出しは強い**見込み。

・ これらのことから、**日本付近は暖かい空気に覆われやすい**。

次回 3 か月予報（7月～9月：6/23発表）



今いる地点、知りたい地点の気象がわかる！ デジタルアメダスアプリ

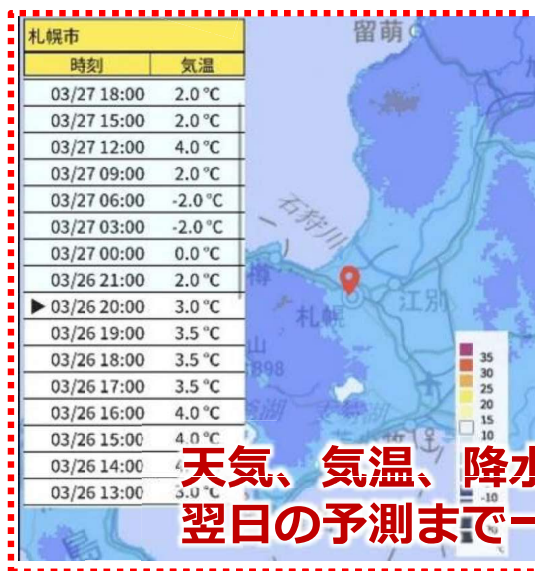


iPhone



Android

スマホでアメダスを持ち歩こう！



天気、気温、降水量など
翌日の予測まで一括表示

登録地点リスト	
職場	↓ 編集 削除
自宅	↑ ↓ 編集 削除
東京駅	↑ ↓ 編集 削除
札幌市	↑ ↓ 編集 削除

※ ↑ ↓ : 表示順の変更

自宅や職場、旅行先など
15ヶ所まで登録できる



プッシュ通知で 屋外作業を安全に
(雷・霜注意報、熱中症警戒アラート)



水産業や海のレジャーに
海水温や波浪などの海洋データ



農作業の目安に便利な
気温や降水量などの積算データ



過去の気象データをグラフ化で
平年・昨年との比較も簡単

デジタルアメダスアプリが あなたの暮らしをサポート！

ここに記載した活用事例はあくまで一例です。

アプリに搭載の各種データや機能を通して、様々な分野で気象データをご活用いただけます。

産業での活用

農林水産業

- 収穫・追肥時期の判断に積算データ（気温・降水量）を活用
- 農薬散布、ビニールハウスの管理等に風の情報を活用



- サーモン養殖の水温監視に海面水温の予測データを活用
- 漁船の出港判断に波浪データを活用



屋外作業・イベント運営

- 現場作業・屋外活動の判断に警戒アラート通知（雷・熱中症）気温・積雪データを活用



運輸・観光・サービス業

- 配送ルート検討に降水や積雪の状況を活用
- 遊覧船の出航見通し把握に波浪データを活用



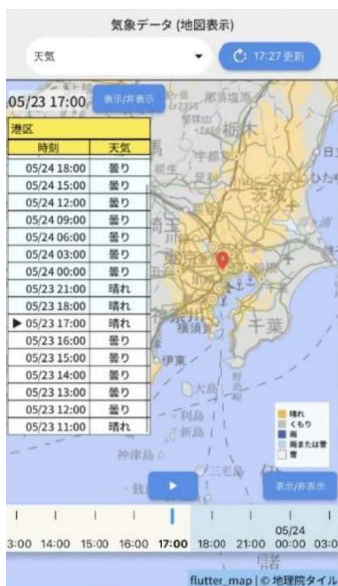
生活での活用

- 熱中症対策に警戒アラート通知を活用
- 当日の服装選びや傘の準備を職場、学校などの気象データから判断
- 洗濯物を屋外に干すかどうかを予測データから判断
- 旅行先を地点登録して天候の把握に活用 など



<アプリの各種データ・機能>

① 気象データ (地図表示)



- 面的気象情報を地図上で表示
- 見たい地点を地図上で選択すると、過去から現在、予測までの気象データを時系列で表示（位置情報を有効にすると現在地のデータを表示）

閲覧可能な要素

天気	気温
降水量	日照時間
積雪深	降雪量
雷の動き	地上風
雨雲の動き	

② 予測データ



- 現在地又は登録地点の翌日までの天気・気温・降水量を表示
- 気温と降水量は時系列グラフで表示
- さらに先の予報は、気象庁HPへのリンクを掲載

③ 過去データ (グラフ表示)

- 気象データの今年の推移を昨年や平年と比較したグラフで表示
- 表示期間は、直近1か月、3か月、半年及び年初から選択可能

閲覧可能な要素

気温
降水量
日照時間



④ 積算データ



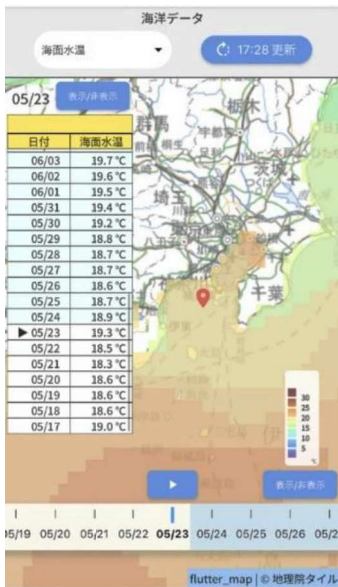
- 現在地又は登録地点で、設定した期間の積算データを表示
- 選択可能な期間は、2022年1月1日から昨日まで
- 気温については、積算する気温の下限を設定可能

※積算気温は主に、農作業時期の指標に使われています

閲覧可能な要素

気温	降水量
日照時間	降雪量

⑤ 海洋データ



- 面的海洋情報を地図上で表示
- 見たい地点を選択すると、過去から現在、予測までの海洋データを時系列で表示

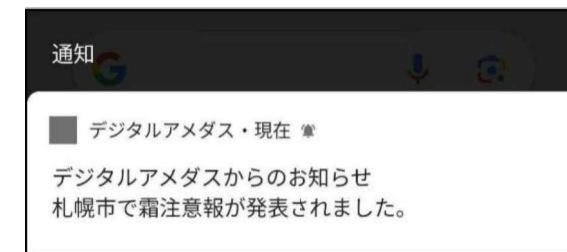
閲覧可能な要素

海面水温	波浪
表層水温（水深50m）	
表層水温（水深100m）	
表層海流（水深50m）	
海水密接度	

⑥ アラート通知

- 現在地又は登録地点に対し、発表された際にプッシュ通知を受けたい情報を選択
- 通知を受けられる情報：雷注意報、霜注意報、熱中症警戒アラート

スマホの通知画面



⑦ 地点登録・管理

- 定期的にデータを閲覧したい地点を地図上で選択し、地点名を登録
- データの閲覧やアラート通知を受ける地点を、最大15地点登録可能

登録地点リスト表示

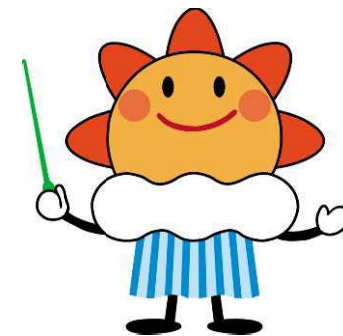
登録地点リスト	
職場	↓ 編集 削除
自宅	↑ ↓ 編集 削除
東京駅	↑ ↓ 編集 削除
札幌市	↑ 編集 削除

※ ↑ ↓ : 表示順の変更 編集 : 名称の変更 削除 : 地点の削除

⑧ ご意見・ご要望

- ユーザーの利便性向上のため、このアプリに搭載している各種機能の活用状況や、ニーズを把握するコメント送信機能を搭載
- 選択式の質問に加え、自由記述欄から意見・要望を送信できる

ご清聴ありがとうございました



2025年夏の高温への地球温暖化の影響

- シミュレーションの結果によると、地球温暖化起きていなかった場合に2025年夏のような高温が発生する確率はほぼゼロ。
- 地球温暖化が進んだ現在の状況下でも、約60年に一回の発生確率。

推定の対象期間	2025年に観測された気温を超えるのは	
	7月	夏（6～8月）
工業化以前	ほぼ実現しない	ほぼ実現しない
平年値期間（1991～2020年）	約420年に一度	約500年に一度
すでに温暖化が進行している 2025年現在（括弧内は誤差幅）	約70年に一度 （約30～100年に一度）	約60年に一度 （約30～180年に一度）

令和7年9月5日気象庁報道発表資料より

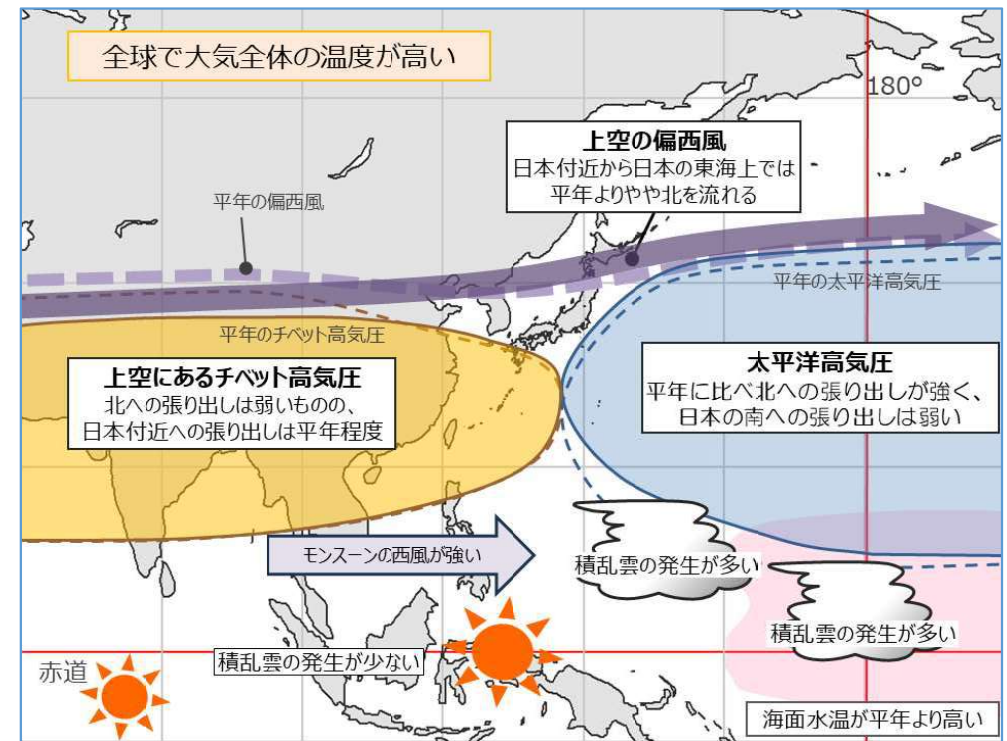
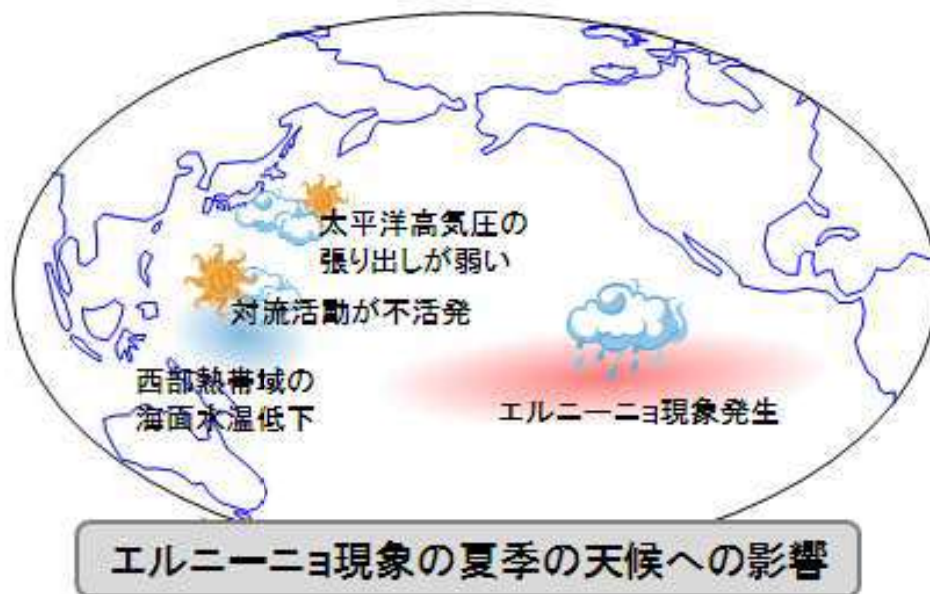
https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05b/kentoukai_bessi20250905.pdf

（ご参考）イベント・アトリビューション

「現実の条件」と「地球温暖化が発生しなかった条件」で、計算機により多数のシミュレーションを実施して、極端現象の発生頻度・強度に対する地球温暖化の影響を評価する手法

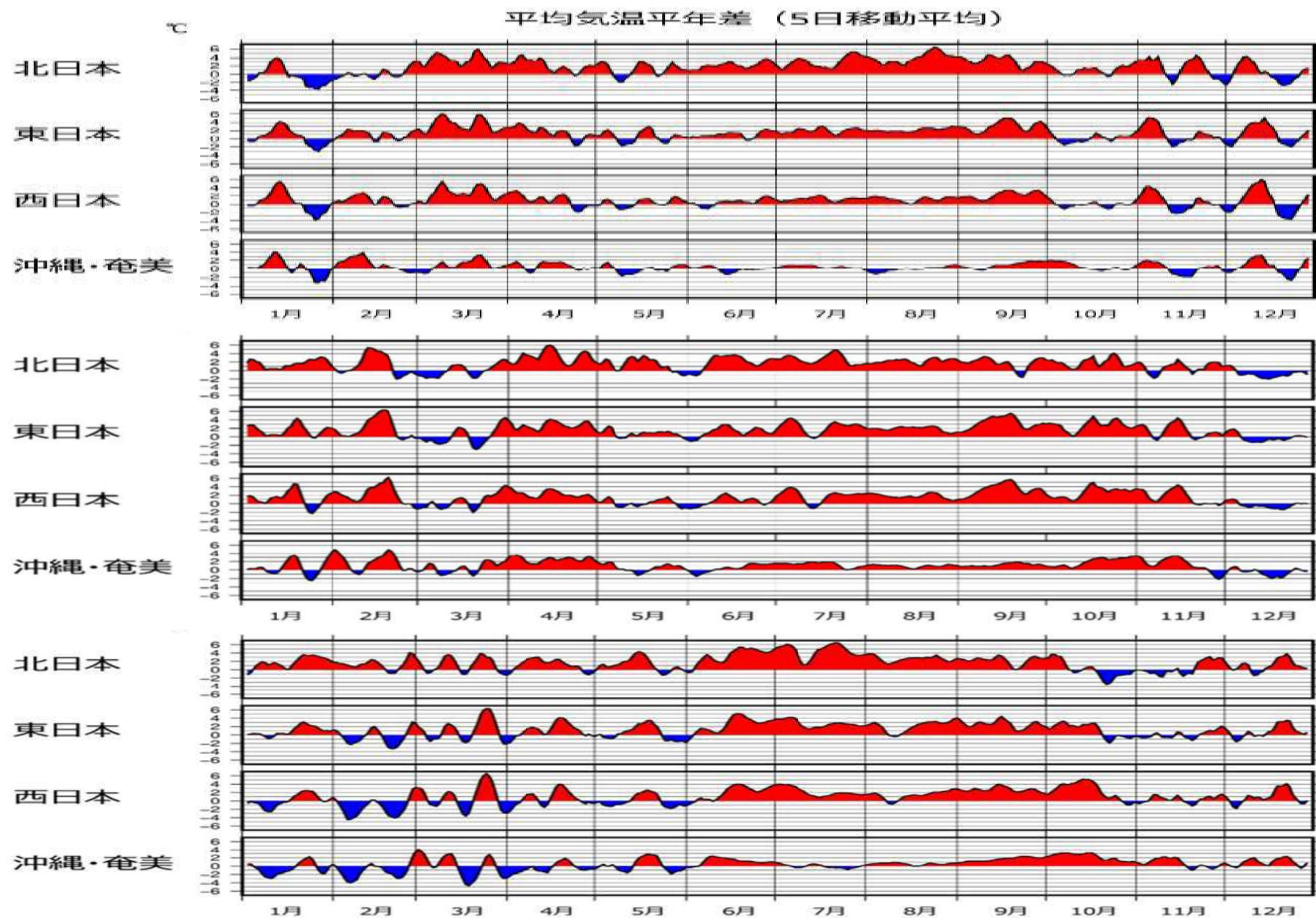
エルニーニョ現象発生時の統計的特徴と今夏の予測

- エルニーニョ現象発生時、統計的にはフィリピン付近の対流活動が不活発⇒太平洋高気圧の日本への張り出しが弱い。
- 今夏はフィリピン東海上の対流活動が活発⇒太平洋高気圧の北への張り出しが強い。



予想される海洋と大気の特徴

2023～2025年の平均気温偏差の推移

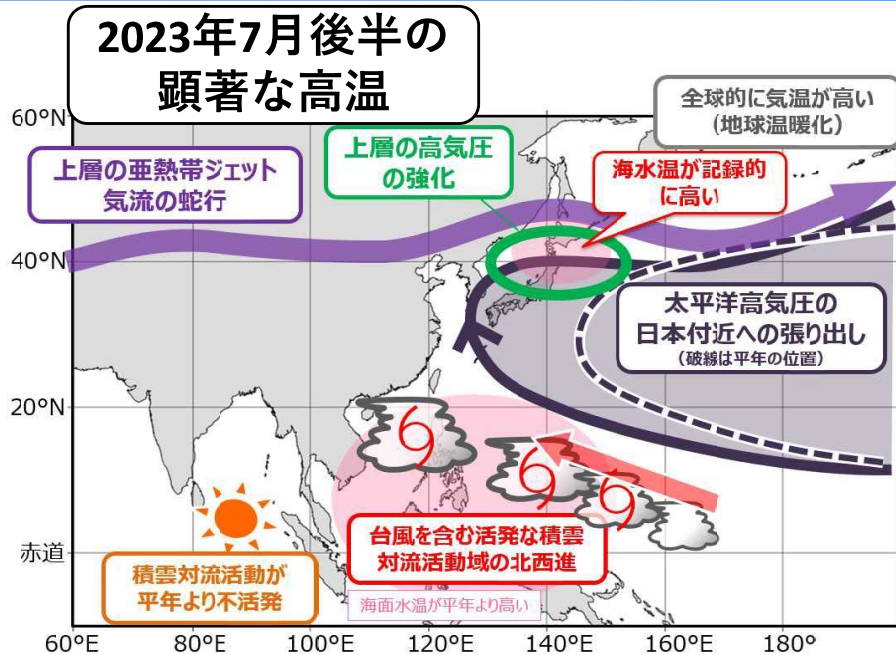


2023年

2024年

2025年

3年連続の夏の高温で共通する要因



■ 過去3年の夏の高温で共通している要因は、

- 日本付近で偏西風が北に蛇行
- 日本近海で海面水温が高い
- フィリピン周辺で積乱雲の活動が活発
- 地球温暖化

